



(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話 (521) 8494

放射線量再評価と科学者の任務

安 斎 育 郎

この夏は、広島・長崎・ビキニの被災の実相について、あらためて考えさせられることが多かった。

広島・長崎の被爆者が受けた放射線の量については、日米の科学者を中心に再評価がすすめられている。七月下旬に放射線影響研究所が中間的に発表したところでは、これまで四〇〇ラド程度と考えられていた半数致死線量が、新しい線量体系のもとでは、二二〇、二六〇ラドに改訂されそうだという。

線量再評価の結果はやや複雑で、広島ではガンマ線は高く、中性子線は低く改訂され、長崎ではガンマ線・中性子線ともに低く改訂される傾向であるが、ガンマ線と中性子線の総量では、広島も長崎もかなり低く改訂される見通しである。こうなると、従来考えていたよりも低い線量であれだけの被害がもたらされたことになるため、放射線のリスクはこれまでの推定よりも大きいことになる。これは、放射線被曝労働の安全基準の妥当性にも疑問を投げかける重要な知見である。

この重要な知見を前にして、筆者に

には気が晴れぬことがひとつある。それは、この線量再評価研究の動機が中性子爆弾使用計画だったと考えられるからだ。戦域限定戦争構想の具体化に伴って、七〇年代後半、中性子爆弾の空中爆発による敵兵への被曝線量を評価する必要に迫られ、大気中核実験が禁止されているなかで、これをコンピュータによるシミュレーションで評価したのが線量評価法見直しの直接のきっかけだった。いわば、核戦争準備のエスカレーションの過程で、その副産物として広島・長崎の被爆の実相が明らかになったという経過なのだ。従来線量推定値はかなり正確と考えられていたから、巨費を投じて再評価研究を行なう動機はあまりなかったのである。こうした基本的な問題が、軍事研究としてしか動機づけられなかった経緯に、大いに腹立たしさを感ずるのは筆者だけであろうか。

折しも、黒い雨の降水領域についても、増田善信氏らによって見直しが進められつつあり、被災直後の人びとの行動ともあいまって、線量評価に

にも新たな問題を提起している。新たな情報は、ビキニの実験被害に、ついてもたらされた。

ワシントン大学のトーマス・ハミルトン博士がマーシャル諸島の全十四島について、実験当時の七千三百人の住民を調べたところ、甲状腺結節などの放射線障害は、従来から多発が伝えられていた近隣の二島のみならず、実験場から南へ遠ざかるにつれて患者は少なくなるものの、これまで「被害なし」と考えられていた残り十二島でも、平均二・五名の割合で患者が認められたという。

日本でも、第五福竜丸以外の被害の実態が高知県下をはじめとして見直しの機運にあるが、経済価値に結びつく先端技術に関する知見が日進月歩であるのに反して、広島・長崎やビキニ被災の実相に関する知見は、何と三〇年も四〇年も放置され続けることである。しかし、人類の生存そのものにかかわる普遍的な価値をもつこうした知見をこそ、徹底的に究明し、全人類に提供すべきものである。科学者の任務は、重い。(立命館大学教授)



カナダ人の作曲による

|| 反核俳句 ||

浅野 道 風



核兵器廃絶と被爆者支援を目指す「ノーマ・ヒロシマ・コンサート」が八月五日、広島市の県民文化センターホールで開かれ、日本の俳人の反核精神をこめた「俳句による歌」が広島在住のメゾソプラノ歌手・千葉佳子さんによって歌われ、貞広辰雄氏がピアノ伴奏をした。

ことのはじまりは昨年春、カナダのトロント大学のアナトール・ラポポート教授が広島を訪れた際に、広島大学の芝田進午教授との会話の中で、同教授の令息アレキサンダー・ラポポート氏がカナダの有名な作曲家であることを知り、芝田教授は「ノーマ・ヒロシマ・コンサート」のために作曲してほしいと依頼した。やがて同氏から反核俳句に作曲したいとの意向が伝えられ、芝田教授から私への連絡となった。これをうけて私はその選定に苦慮をした。男性と女性、被爆者の想いも、と色々の段階を経た。作品提出の手紙をだしても

返事のない方、被爆者であることの公表を避ける方も多く、その対応のむつかしさを痛感したものである。

やっと出井知恵子さん(広島県庄原市出身で広島に原爆が投下された一週間後に挺身隊として死傷者救援のため市内に入り放射能の汚染を受けた。昨年十月十八日に敗血症のため死去)に白羽の矢をたて大阪へ、二人してそれぞれの作品を選び検討し合った。それは次の作品である。

被爆者の想い 出井知恵子
死臭抜け 歩道で探す 一つ星
原爆の 夢消す わが半生は教師
遺書はなし 春野の造花

かさかさ鳴る
少女の日 まぼろしとなる 大西日
白血球 測る 晩夏の 濁きかな

原爆忌 浅野 道風
広島へ 草の根 汗の 手をつなぐ
母ら揺られて 銅鑼をたたき 被爆の刻

トマホーク・ノー 列島へ

原爆忌 くる 白髪を 梳きいたり
反核の 声 うちこまる 西日の奥

この作品は出井知恵子さんの教子である伊藤敦子さんを煩わし、二人の作品を朗詠ふうにし、テープに吹きこみ、私が大意を付しそれを芝田教授が英文で説明をつけて下さった。その後、ラポポート氏によって作曲された楽符が到着したので昨年七月のこと、すでにコンサートの練習は開始されており組込むことはできず翌年(今年度)廻しとなった。

広島を訪れること十数回になるが今回ほど大感激にひたつたことはない。カナダ人によって作曲された俳句作品、||反核俳句||が朗詠ではなく音楽として独唱されたからである。核廃絶のために俳句が少しでも役に立てばこんな喜びはない。今それが実現されたのである。世界的に俳句が広がっているときに「世界の人びとに被爆者の悲しみ、核兵器のおそろしさを少しでも知って貰いたい」と胸をふくらませてコンサートに期待していたのは私ばかりではない。五



「第七回久保山忌句会」の御案内

- ・九月三日(秋分の日)
- ・展示館見学後、午後一時より「江東区文化センター」(江東区役所裏)にて句会
- ・第七回久保山忌句会実行委員会主催/第五福竜丸平和協会協賛
- ・投句歓迎/御参加を!

ひろがる核被害

豊崎博光

被ばく者が世界中にいたることはすでに知られているが、被爆四二年目の今年八月、新たな被ばく者の存在が明らかとなり、核被害がさらに広い範囲に及んでいることが示された。

ひとつは、非核国ニュージーランドにも被ばく者がいるというところである。それは、英国がクリスマス島(現キリバス共和国領)で行った核実験に参加して被ばくしたニュージーランドの先住民マオリ族のツリ・ブレイクさん64が、今年の原水禁大会に出席したことで初めて明らかとなった。

米、ソにつぐ第三の核保有国英国は、一九五二年から五八年まで、オーストラリアとクリスマス島で二回の原水爆実験を行っている。これらの核実験で、これまで、英国兵二万人、オーストラリア兵一万人、オーストラリアの先住民アボリジニが千人被ばくしたとされてきたが、ニュージーランドの人びとの被ばくについては知られて

いなかった。

元ニュージーランド海軍兵のツリさんが参加したのは、一九五八年九月の水爆「グラップルZ」(数メガトン。高空爆発)実験で、乗っていた駆逐艦(乗員一六〇人)は爆心点から四〇キロにあった。爆発時、選ばれた十二人は、つなぎ服、頭の部分があたり頭巾をかぶって甲板に並べさせられた。内三人はガイガー・カウンタを持ってたされ、サングラスはかけさせられた者とそうでない者がいた。ツリさんはガイガー・カウンタを持たされ、サングラスはしていなかった。爆心点に背を向け、閉じた目を手で覆っていたが、爆発の瞬間、背中に強烈な熱さを感じ、閉じた目の中を閃光が走ったのを見た。その後爆心点にむきなおったツリさんは、巨大な火球が赤からオレンジ色にかわり、水柱をともなつてキノコ型の雲になるのを見た。衝撃波で艦が激しくゆれた後、放射能を含んだ豪雨がツリさ

ら甲板上の十二人を襲った。ずぶ濡れの中でツリさんは、ガイガー・カウンタが凄まじい音を発し、針が振り切れるのを見たが、その意味は解からなかったという。当時、ニュージーランド海軍の艦船だけが爆心点近くにいて、英国の艦船は遠く離れて見えず、ツリさんからニュージーランド人は人体実験にされたのではといわれている。現在、英国の核実験に参加している被ばくしたニュージーランド人は約千人いるとされ、ガンなどで苦しんでいる者が多いといわれるが、健康調査や補償はまだ行われていない。

もうひとつの被ばく者の存在は、八月六日、米ワシントン大のT・ハミルトン博士が、マーシャル諸島には従来の三倍の被ばく者がいると発表したことである。

米国は従来、一九五四年三月一日の水爆実験を含むマーシャル諸島での六六回の核実験の被害者は、ロンゲラップ島とウトリック島民二四三人だけだとしてきた。しかし七〇年代末頃から、両島以東の島々で、甲状腺異常、ガン死、障害児出産が多数報告され、私自身も一九八二年のウォツジエ島(ビ

キニの東五五〇キロ)取材の際にそうした人びとに出会っていた。博士によれば、マーシャル諸島北部の十四島、七千三百人を調査対象としたとしているが、核実験被害はそこまで広がっていることを認めたい。

昨年十月、米国と自由連合協定を結んだマーシャル諸島共和国はロンゲラップ島民らへの被ばく補償とひきかえに、以後の請求権を放棄している。新たな被ばく島民は補償もされず、請求する権利もない。

大気圏内核実験が終わって二十年、隠された被ばく者が現われているが、補償を得た者は少ない。科学者や医学者の過少評価によって無視され、切り捨てられた被ばく者は多く、核被害の実体はまだ広がりそうである。(フォトジャーナリスト)

※豊崎氏は、ネバダ実験場風下の被ばく者、スリーマイル島周辺住民の取材、ニューヨークで開かれる第一回世界核被害者大会(九月二六日〜十月三日)の出席のため、八月二八日、アメリカへ出発されました。帰国は十月下旬頃とのことです。



ピカソによるフレデリック・ジョリオ・キュリー像

自然界における放射性元素、放射能の存在を発見したのは、ピエルとマリイ・キュリー夫妻でした。その功績を讃えるノーベル賞受賞講演でピエルはこう述べています。「犯罪者の手に入れば、ラジウムはきわめて危険なものになるでしょう。一体、人類は自然の秘密を知ることと利益があるのでしょいか。人類は自然の秘密の知識を善用できるほど成熟しているのでしょうか。」(一九〇三年)。



平和随想 (八)

三宅泰雄

長女イレヌと夫フレデリック・ジョリオ・キュリーは父母の研究をさらに発展し、人工放射能を発見(一九三五年度ノーベル賞)、これがオットー・ハーンたちによる原子核分裂の発見に道を開きました(一九三八年)。

ピエルの予言どおり、これらの「自然の秘密の知識」が「原子爆弾」を生み、広島、長崎の市民・数十万を殺りくしました。

第二次世界大戦が始まった頃はジョリオ・キュリーたちも、ヒトラーに対抗するため、原子核分裂の研究に従事していましたが、ドイツ軍に占領された後は、地下レジスタンス運動に加わりました。戦後、ジョリオ・キュリーは原子力委員長に任命され、原子炉開発の基礎を置くと共に、世界科学者連盟、世界平和評議会の結成に尽力していましたが、一九五〇年四月、政治的理由で委員長を罷免されました。

その年の三月、キュリーたちが中心となり、アインシュタイン、ピカソ、サルトルらの賛同を得て、「ストックホルム・アピール」が発表されました。アピールは「原子兵器の禁止、国際管理の確立」

を訴え、さらに「原子兵器を使用する政府は戦争犯罪人」と断じています。「犯罪人」の語の使用は、ジョリオ・キュリー夫妻の提唱ではなかったかと、私は想像しています。

同じころに朝鮮戦争が始まり、十月末には中国人民義勇軍が国境を越え、朝鮮戦線に出勤する事態となりました。戦況が思うにまかせぬため、トルーマン大統領は記者会見で「朝鮮で原爆の使用もあり得る」との重大発言をしました(一九五〇年十一月三十日)。これに驚いた英国のアトリー首相は、急遽、アメリカに飛び、トルーマンに会って、原爆使用に反対の強い意志を伝えました。トルーマンは原爆使用を断念しましたが、この他にも国連の戦争不拡大方針、ソ連原爆の成功(一九四九年)、戦域核の未完成など、不利な条件があった為と考えられています。

ストックホルム・アピールの賛同者には、「朝鮮での原爆使用をやめさせたい」と自讃する人も少くありません。その論拠の一つとして、キッシンジャーの著書「核兵器と外交政策」(一九五七年)が引用されています。彼は、その中

でたしかに、ストックホルム・アピールに言及し、米国としては「この世界平和運動を、単にソビエト寄りの宣伝として放置してはならない」と警告しています。同時に、「これが朝鮮での原爆使用を断念させた」というのは、東独の新聞「ノイエ・ツァイトウング」(一九五五年)の「自慢話」だと揶揄しています。

アピールは同年十一月までに全世界で約五億の署名を集めたと報告されました。その中の四億以上は、中、ソ、東欧、北朝鮮の諸国でした。当時の各国の人口分布から見ると、これは、相当に「誇張」された数のようです。

私たちはストックホルム・アピールが戦後始めて、世界的な平和運動として原爆の禁止を訴えたことを高く評価するものです。占領下のわが国で、多くの困難にも拘らず、六四五万もの署名が寄せられたことも、特筆に値する重要な歴史的事実です。しかし同時にその功績を正しく評価するためには、「自慢話」や「誇張」は、却ってその妨げになることを私は憂えています。